

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 4 回松阪市地球温暖化対策実行計画策定委員会
2. 開 催 日 時	令和 6 年 3 月 14 日（木）13:00～14：30
3. 開 催 場 所	松阪市橋西地区市民センター 大会議室
4. 出席者氏名	(委 員) 岩崎恭彦、井村彰、蛭田三義、川口哲也、橋本耕一、中井都紀子、藤原洋太郎 (事務局) 下倉環境課長、前川課長補佐、山路政策担当主幹、末富係員
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	1 名
7. 担 当	松阪市環境生活部環境課政策係 TEL 0598-53-4425 FAX 0598-26-4322 e-mail kan.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- (1) パブリックコメントの結果について
- (2) 松阪市地球温暖化対策実行計画（案）について
- (3) 松阪市地球温暖化対策実行計画概要版（案）について

第4回松阪市地球温暖化対策実行計画策定委員会 議事録

日 時 : 令和6年3月14日(木) 13:00~14:30

場 所 : 松阪市橋西地区市民センター 大会議室

出席者 : 11名

委員 7名

岩崎恭彦、井村彰、蛭田三義、川口哲也、橋本耕一、中井都紀子、藤原洋太郎

事務局 4名

下倉環境課長、前川課長補佐、山路政策担当主幹、末富係員

1. 開会

13:00~13:03

事務局挨拶

- ・公開で行うこと及び録音し議事録作成を行う旨の説明
- ・水谷・田中・天白・大西・西・米山・天白委員が欠席の旨の報告
- ・傍聴者1名

2. 議事

・委員長の挨拶

13:03~13:04

(1) パブリックコメントの結果について

- ・事務局よりパブリックコメントでの意見と市の見解を説明
- ・各委員より発言

13:04~13:17

委 員 長：説明を受けた内容で質問があればお願いしたい。

委 員 : Bさんのふたつ目の質問で「公用車のEV化推進」に言及しているが、EVのみと限定するのではなく、PHEVなどもあるのだから範囲を限定しない記載のほうがよいのではないか。近年はPHEVのほうが効果的であるという情報もある。

事 務 局：ご指摘のとおりである。昨年11月にEV基本方針をたてた。EVとPHEVとFCVを対象としており、費用面・運用面を精査し、可能な限りEV化を目指している。対応車種がないものは低炭素型自動車を対象とするので、その旨を書き加えて進めている。

委 員 長：Bさんの意見に対し最新の情報であるIPCCの「第6次評価報告書」ではなく、「第4次評価報告書」に基づいて回答していることに関しては何か理由があるか。

事 務 局：温室効果ガスの濃度の関係上必要なデータが記載してあるものが第4次評価報告書であったため、それに基づいた回答としている。

委員長：それであれば、当計画に第４次評価報告書に基づいたデータであることの理由を記載してみてもどうか。

(2) 松阪市地球温暖化対策実行計画（素案）について

・事務局より松阪市地球温暖化対策実行計画（素案）の説明

13：17～13：50

・各委員より発言

委員長：前回の意見を踏まえて見直されたものであり「自分のこと化」しやすい様々な工夫があると感じる。説明を受けた内容で質問があればお願いしたい。

委員：P.3 図 1-1 のグラフだが右側の数値が見えにくい。2100 年付近での数値の変化がわからないがその点問題ないか。また、パブリックコメントの B さんの意見だが、森林耕作地が 8 割以上と記載あるが、P.12 図 2-2 のグラフの数値が違っており、パブリックコメント募集時は 8 割という記載だったが、グラフの出典を改めたことで約 7 割になったという認識でよろしいか。J-クレジットに関しては、2030 年度まで認証量などの具体的な内容は回答しないということではよろしいか。産業分野のデータに関しては、エネルギー転換部門と工業プロセス部門は松阪市には該当しないので除外したという認識でよろしいか。

事務局：P.3 図 1-1 のグラフを選んだのは、地球温暖化に対して危機意識を持ってもらうことが意図である。グラフ変更の変更は検討する。他のご質問に関してはご認識のとおりである。

委員：P.47 の省エネルギーの推進の基本施策として、高効率な省エネルギー機器等の促進とある。事業用は省エネ機器等と幅広く記載してあるが、家庭用は省エネ家電と限定した記載になっている。省エネ機器等の文言のほうが、幅広い選択肢があるので、省エネ機器等という表記にするべきではないか。P.71 の進捗管理に市が毎年点検し進捗状況を確認するとあるが、この計画自体が適切なものかどうかを毎年度考える必要がある。その場合、計画の見直しに関することは当計画に記載されるおつもりか。

事務局：計画通りすすめた結果について市議会にて説明しており、議員の方からもご意見いただいている。市議会から報告を求められており検討している。計画については実施しながらうまくいく形を検証していく。省エネ家電の記載については、幅広い意味の省エネ機器等に表現をあらため、国や県の補助制度の認知度公表にもつなげていきたい。

委員：来年度は事業者部門と一般家庭部門で補助制度の一覧表を作成するので、ホームページに上げる予定である。ぜひご確認ください。

委員：部門構成をわかりやすく記載してあるが、P.32 表 3-1 と P.33 表 3-3 で部門名の整合性が取れていない。また、P.6 に計画の目標とあるが、目標という言葉

は数値目標を連想するので、意味を考えると目的といった記載にすべきではないか。

事務局：P.33 表 3-3 の部門名を修正する。P.6 についても計画の目的に修正する。

委員長：他の方のご意見はどうか。少し修正点はあるが、大筋問題ないということでは
ろしいか。

(3) 計画の概要版について

・各委員より発言

13：50～14：00

委員長：概要版は非常にコンパクトにまとまっている。今後の活用方法についてご意見
はどうか。

委員：右上にある松阪市の削減量のグラフは説明がなく、ピンクの箇所が吸収量だと
はわからない。

事務局：本冊の P.34 図 3-2 から抜粋しているが、概要版だけで理解できるように注釈
を追加する。

委員：わかりやすくまとまっているので、小学生が勉強するのにいい資料である。
P.53 の教育に関することだが、「検討します」という記載が非常に気になる。
「実施します」という記載のほうが、より訴求力があると感じる。

事務局：概要版は子ども向けに活用予定である。校長先生に説明する際に、この資料を
使用しながら実施していく。小中学生は iPad をもっているので、端末も活用
していく予定。表現に関しては内部で調整し、より訴求力のある表現にする。

委員：エネルギーの利用促進の下の記載は「ZEH の購入」という表現でよろしいか。
子どもを対象にしている資料と聞いたが、EMS や DX は注釈なしでも理解でき
るものでしょうか。

事務局：ZEH については購入という認識でいる。注釈は入れる予定である。EMS より
DX のほうが馴染みのある言葉なので DX に統一する予定である。

委員長：シンプルにまとめてあるので、注釈はあまり増やすべきでないと感じる。難し
い言葉については「自分で調べてみよう」という気持ちも大切なので、本冊に
説明や関連資料を掲載してみてもどうか。

委員：小学生・中学生向けであれば、彼らができることについて、タブレットの活用
を踏まえて作成いただきたい。

事務局：ご意見のとおり自分の生活の中でどの行動が CO2 排出量削減に貢献できるか
を考えるきっかけとするための資料である。小さい子どもでもわかる内容を、
冊子の裏面に記載している。そこをみることで自分の生活と CO2 排出量削減
の関連性がわかる。

委員長：概要版に今回の意見を加え、軌道修正していただきたい。

(4) 委員会の今後について

・各委員より発言

14:00~14:17

委員長：最後にご意見をいただきたい。本日の委員会をもって当策定委員会は終了となるが、計画を作って終わりではない。計画を実行し適宜見直しをしていくものである。委員の意見をまとめ意見書を提出するので、P.74 に意見書として掲載していただきたい。事務局は子どもに向けた環境学習や取り組みは実現可能だが、その他部門に関しては専門家としての各委員の知見が必要だと思う。計画の進捗管理・実行について、各委員のご意見をこの場で伺いたい。

副委員長：概要版は資料として簡潔にまとまっている。わかりやすさという点では、子どもは年齢層で理解度が異なるので、小学生や中学生向けに年代別にまとめると思う。市民アンケートでは20代~40代の若い方の理解度が低いという結果にあるとおりで若い方向けへの訴求が必要。今後の展開として商工会議所は、各事業者・会員に向け会報やHPにて発信しできる範囲で協力していきたい。

委員：P.71の進捗管理については市のホームページに流してもらえれば、各事業所に見てもらうように発信できる。商工会議所と同じように実施でき見直しを繰り返すことで、将来的により計画になると感じる。

委員：計画の状況報告に関して、年度ごとに変化した数値を公表するが、年に一回の公表では少ないと思う。年間を通じて温暖化対策のイベントが続くほうが、市民の皆様に浸透していく。最終的な結果だけではなく、年度途中での公表も必要だと思う。啓発なのでできるだけ多くやることが大事。小学生・中学生は今後の自分の人生に関わることなのでしっかり取り組んでもらえると思う。逆に上の世代のほうが、自分に関係ないと考える方が多いので、自分の置かれた状況を改めて考える機会を設けられるよう工夫してほしい。

委員：農協としては組合員3万人強へ発信可能なので、計画の施策や意見をピックアップして発信していきたい。計画の進捗についてはPDCAサイクルが回っているかを考えて検証していかなければならない。

委員：必要に応じて委員会の招集することがあれば、ぜひ協力させていただきたい。

委員長：最終的な記載内容は委員長と副委員長に一任いただく形でよろしいか。

事務局：出席予定であったが諸事情により参加できなかった委員に対しては、後日事務局が説明に伺う。当計画や今後に関しての意見を聞き取ることで出席とみなし、当委員会が成立することとするがよろしいか。